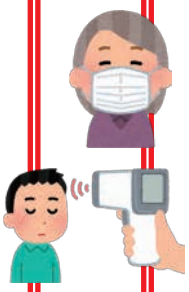
新型コロナウイルス感染症の対策



新型コロナウイルス感染症対策において、何よりも大切なのは『感染者を出さないこと』です。そのためには、施設全体での取り組みだけでなく、職員や施設に出入りされる業者なども含めて感染を予防する意識が重要となります。

利用者の安全を守るための取り組みの一部をお伝えします。

感染予防対策委員会より

入居施設では、利用者の日々の体調をしっかり管理し、体調の悪い時には家族や嘱託医と連絡を取りながら対応しています。デイサービス、ショートステイでは利用日の朝、自宅で体温測定をお願いし、37℃以上の発熱がある場合は利用をお断りしています。また、送迎車内でのマスク着用を徹底し、車内の手すりなどは利用の度に消毒しています。

手洗い、うがいはもちろんのこと各ユニットには手指消毒器を設置し利用者・職員共に手指の消毒をこまめにしています。また、手すりやドアノブなど手が触れる場所は定期的に消毒し、各テーブルには飛沫感染予防パネルを設置して密状態にならないよう少人数で過ごしていただいています。

▲毎朝の体温測定

感染の予防には『感染経路の遮断』が重要です。施設を訪れる方は、意図せず感染している可能性があります。感染経路になり得るものを遮断するという目的で面会を制限し、業者関係の方は玄関対応としコロナウイルスが施設内に入ってくる可能性を少しでも減らすように対応しています。

管理栄養士より

新型コロナウイルス感染症の流行で外出の自粛要請が出された今年は配食サービスにも少なからず影響を与えました。

いつもなら別で暮らす家族が週末に帰省し、ご本人の様子を確認することができる、長期休暇には一緒に外出することもある。そんな日常ができない日々が今も続いています。

3月を過ぎたころから配食サービスには「見に行けなくて心配だから回数を増やしてほしい」「ちゃんと食べているか分からないから配食サービスを始めたい」といった依頼が増えました。

配食サービスは毎回同じ時間にお弁当を手渡しすることで見守りを兼ねています。配達員は各戸を訪問する度に手指消毒を行い安全面の対策をとっています。

▲デイサービス到着後のうがい

利用者の中には定期的なサロンや活動の中止に伴い、外出や会話の機会が減ってしまった方もあります。お弁当は毎回同じ配達員が届けるため、受け取る時の会話を楽しみに外で待っている方もあります。

配食サービスは、ただ食事の配達だけではなく、本人も家族も安心して今まで通りの生活を続けることができるよう寄り添うサービスでありたいと考えています。

生活相談員より

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい入居者への面会を禁止する措置を取らせていただいた間はご不便やご心配をおかけしました。9月から予約

▲いつも外で待っていてくださるご姉弟